

新年度の事業・役員決まる

本年度の開発教育協議会総会は5月13日に、東京都新宿区西早稲田2-3-1の早稲田奉仕園セミナーハウス102号室で開かれた。総会では新しい事業企画などについて、運営会議メンバーが個々に詳しく説明したこともあって、いろいろな意見や要望が会員から出された。ことしの主な新規事業は、開発教育基本文献集、ハンドブック、アクションリソース・パンフレットの作成、セミナーの開催（別項）、情報センターにおける基本図書を選定などとなっている。また新年度の役員は別項の通り選出されたが、6月8日の理事会で代表理事に日本YMCA同盟の宮崎幸雄さんを互選した。

ヨーロッパ評議会人権教育セミナー

ヨーロッパ評議会は一昨年8月にスエーデンで、加盟8か国から約50名の参加者を集めて、地球的展望における人権教育に関するヨーロッパ教員セミナーを開催した。その報告書からセミナーにおけるいくつかの提示例を紹介する。

セミナーは7人の問題提起から始まったが、その一人、スエーデン全国教育委員会の教育部長テーリン氏は、人権は平和教育の一環であると題して次の諸点を提示した。

- 1) 諸国間の協力と連帯は民主主義の基礎であり、カリキュラムにはそれが反映していなければならない。
- 2) すべての学生・生徒は、国際協約や勧告を理解していなければならない。その中には1974年のユネスコの国際理解教育に関する勧告、1980年の軍縮教育パリ世界会議、1985年のヨーロッパ評議会人権教育勧告、世界平和年にいたる国連の努力などが含まれるべきである。
- 3) すべての学生・生徒は、貧困、環境、文盲

などという人類の共通課題を認識していなければならない。

- 4) 学生・生徒は、一国の政治的あるいは経済的決定が与える国際的な連関性について知っていなければならない。たとえば、毎分千五百万ドルが軍備に費やされているが、毎分30人の子どもが飢えと病気で死んでいること。

テーリン氏はさらに何を教えるべきかということを取り上げた。

- 1) まず平和について：消極的平和だけでなく、積極的平和を取り上げなければならない。当然、国際的あるいは国内的な対立葛藤の根元にまでいたる。
- 2) 自由について：個人の自由と集団の自由も。
- 3) 開発：貧困と豊かさの因果関係、武器購入の経済的負担、人為による自然災害などについて学生・生徒に分析研究させ、開発の積極的側面と消極的側面を理解させる。
- 4) 人権：社会的、文化的、経済的、政治的権利の尊重と擁護を通じて、平和の積極的概念を理解させる。

セミナーでは引き続いて7点の実践報告がなされたが、ここではスウェーデンの中等学校における9学年生(16歳)対象の「平和学習の日」を紹介する。これが実践されているのはルント地方であるが、実践のためには教師側の事前の連携や研究が必要だと説かれている。

この平和学習の日には次のような活動が展開された。

- 1)全体会議：すべての学生が参加するオリエンテーションの会。主題にそった映画も上映された。
- 2)分科会：5つの分科会に分かれる。a)世界の現実分科会：戦争の原因、生活費、軍事費、などを取り上げる。b)世界の数学分科会：いくつもの国の軍事費と日常生活費を比較する。c)地球を愛する分科会：たまたまカナダの医師の核戦争の結果をビデオ化した映像があったので、そのビデオを使った講義。d)ノーモア・ヒロシマ分科会：日本に住むスウェーデンの作家の報告に基づく討議。e)家庭救急箱分科会：さまざまな福祉、生活向上、開発協力などの団体を研究する。
- 3)分科会が終わると、全員が地球レストランに集まった。昼食だが、入口で任意に座席券が配られ指定された席につくと、たっぷりと食事が出てくるところもあれば、申し訳程度量の量しかないところもあるというアレンジ。
- 4)評価作文の時間：全員がこの日の活動について作文する。これは翌年の企画の参考にもなる。
- 5)全体会：最後に全体の集会があってしめくくった。

周到な準備と新鮮な教材資料の提示、それからプログラムについての新しいアイデアが、この種の活動の決め手であると報告された。

セミナーではこのあと問題提起や実践報

告をめぐって討議が行われたが、教材や資料の所在、主題や討議項目の選択、教師の動機づけや訓練あるいは事前準備、学生・生徒の動機づけなどが課題として指摘されている。

アジア人権基金が設立されようとしています

今年の2月に声をあげた「アジア人権基金」設立準備会が、募金協力を呼びかけている。これはアジアで起きているさまざまな人権侵害をなくし、人権擁護をすすめるために、アジアの人権問題に取り組んでいる民間団体への援助、アジアの人権についての調査研究、アジア人権会館の建設、アジアの人権問題についての啓発広報活動などを目的に、5億円を目標に寄付金と賛同金を募っているもの。賛同金一口五千元、準備寄付金一口一万円としているが、金額の多少にかかわらず寄付を受け付ける。

ほかにも維持会員、賛助会員を募集しているが、問い合わせは東京都新宿区下宮比町2-28-218 「アジア人権基金」設立準備会(電話03-266-9471)まで。

第2回開発教育を推進するセミナーにぎやかに開催されました

日本クリスチャンアカデミーでは、本年に開催を予定している3回の「開発教育を推進するセミナー」の第2回を、6月3、4日の両日、京都市の関西セミナーハウスで開催した。今回は英語、社会科、課外活動の3領域における具体的取り組みについて関係者の意見交換をはかろうというもので、関西地方の学校教師を中心として、約50名が参加した。その様子は近く報告書として公開される。

次回の第3回セミナーは、10月14、15の両

日(土,日)に同じく同セミナーハウスを会場として、環境問題をめぐる理科と保健の領域を主題に開かれる予定である。参加の問い合わせは、京都市左京区一乗寺竹の内町23 日本クリスチャンアカデミー関西セミナーハウスまで。

協議会主催集会ご案内

8月 岡山で全国研究集会
9月 妙高高原でセミナー

恒例の「全国研究集会」が、8月26日から2日間、岡山市で開かれる。ODAを含むこれからの国際協力・海外援助のあり方を中心に、開発教育に関わるいくつかのテーマを深めることが目的。

また、本年の協議会新規事業の1つとして、「開発教育セミナー」が9月22日から24日まで、新潟県妙高高原で計画されている。これは、開発教育指導者養成の必要を指摘する声から生まれた試みで、教室における開発教育の実践に焦点をあてている。

どちらも、参加希望者はこのニュースレターに同封している申込書に記入のうえ、事務局まで。

難民問題学習用パンフできました
UNHCR駐日事務所

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)では、「Let's Study about Refugees」というA4版三つ折6ページの難民問題を学習するための冊子を発行した。モザンビーク、アフガン、カンボジア、ベトナムの子どもの難民の話などを交えながら、もっと難民のことを学習するように勧めている。少し難しいかもしれないが、小学校高学年から中学生向け。人気漫画家 玖保キリコさんのイラストが好評である。入手希望の方は、東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル

西館 UNHCR駐日事務所へ。

なお、日本国際連合協会(東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル)では、難民についての写真パネル、16ミリフィルム、ビデオを貸し出している。あわせてご利用を。

協議会事務局から

* 講演会・集会などのお問い合わせ
情報センターへどうぞ

定期総会の席上で、他の団体や機関などが主催する開発教育関連の集会などについて、情報をもっと流してほしいという要望が出されたのを受けて、開発教育情報センターでは電話による問い合わせにも応じられるようにした。原則として月・水・金曜日の3日間、協議会の情報センターに電話をしてもらえば、手持ちの関係情報をお伝えすることができる。

なお、このニュースレターによる紹介も継続するが、集会などの情報がニュースレターに掲載されることを希望する会員や関係団体の方は、偶数月の20日までに必要な事項を事務局に知らせていただきたい。集会情報が時間切れでニュースレターに取り上げられないことが多いので、ぜひ早めの連絡をお願いしたい。

* 第40回理事会

6月8日午後に関われ、代表理事選出のあと、年度事業の進め方について協議した。

* 第22回事務局運営会議

6月8日夜開かれ、年度事業の執行について討議した。特に新規事業の多くが未確定財源によっていることが論議の的になり、早急に協議会經理のルールを作成することが求められた。

* 情報センター事務局会議

5月25日夜開かれ、開発教育基本文献選定方法、英文資料整理作業、資料収集方法の見直し、などの議題を検討した。

協議会の新しい役員です。どうぞよろしく。団体名あるいは個人名の五十音順

理事（団体）赤井充也（アジア協会アジア友の会）

松本 洋（国際協力推進協会）

内田和夫（シャプラニール＝市民による海外協力の会）

高田幸一（青年海外協力協会）

茂呂雅之（中央青少年団体連絡協議会）

赤石和則（東和大学国際教育研究所）

雨森孝悦（日本国際交流センターACT）

河村幸一郎（日本シルバーボランティアズ）

橋本 正（日本ユニセフ協会）

宮崎幸雄（日本YMCA同盟），代表理事

（個人）白井香里（町田市立真光寺中学校）

太田 弘（慶応義塾普通部）

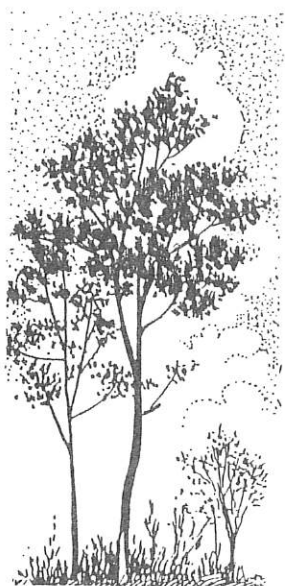
金谷敏郎（国立教育研究所）

田島伸二（ユネスコ・アジア文化センター）

松下俱子（ガールスカウト日本連盟）

鈴木喜志雄（国際開発センター）

河野公俊（立正佼成会青年部）



監事

新入・継続会員（敬称略，4月16日～6月10日）

<新人会員>

桑原まり子（神奈川） 澤 良世（東京） 宇野 公容（東京） 長島 京子（神奈川）

岡田 和男（神奈川） 日本フォスタープラン協会（東京） 大友 元（北海道）

高橋 和子（東京） 荒井 良夫（東京） 二子石 章（埼玉）

ミラー・マービン（北海道） 羽賀 正明（東京） 真木 栄子（三重）

中西 珠子（東京） 田頭 明子（東京） 堀 成美（東京） 武元 茂人（三重）

星野 昌子（神奈川） 吉平喜美子（埼玉） 西井 和裕（愛知） 平田 哲（京都）

名古屋YMCA（愛知） 東京YMCA（東京） 新田ゆかり（東京）

<継続会員>

立柳 聡（東京） 日本国際飢餓対策機構（東京） 今井智保子（愛知）

中島 隆宏（愛知） 渡辺かよ子（愛知） 井上 健（タイ） 北村 暁晴（東京）

渡辺 良（東京） 赤井 充也（東京） 金谷 敏郎（埼玉） 松下 俱子（東京）

田中 治彦（岡山） 山西 優二（東京） 上原美奈子（東京） 羽佐田透一（茨城）

日本ユニセフ協会（東京） 平林 俊彦（東京） 大木 真一（岩手）

荒木 重雄（東京） 山本 伸二（京都） 吉原 喜代（千葉） 西岡 尚也（京都）

横浜YMCA（神奈川） 羽田野 彊（大阪） 米良 重徳（岡山）

日本シルバーボランティアズ（東京） 国際協力推進協会（東京）

日本クリスチャンアカデミー関西セミナーハウス（京都） 齊藤 博（熊本）

野元 弘幸（愛知） 皮籠石成久（埼玉） 真実 一美（岡山）